第 181 回 東葛しぜん観察会

小室で春の兆しを見つけよう

林 信子(船橋市)

日　時： 2023 年 2 月 4 日 （土） 9 時 30 分～12 時、天気：曇り時々晴
場　所： 小室駅～神崎川～小室公園(船橋市)　　参加者： 15 名
担当指導員： 勝股、田島、林、　他 13 名

小室は船橋市の最北端、二重川と神崎川に囲まれ、東西に北総線が横断している三角形の地。そこは旧石器時代の 34,000 年前からの歴史がある地でもあります。

早速 駅前に手の届くプラタナスがあり、実や木肌の様子を見てもらう。落ち葉を拾い、葉柄の根元の穴を芽にかぶせてみる。ぴったり！ 葉柄内芽の様子を観察した。ドウダンツツジには赤い小さな冬芽が一杯、芽の中には花と一年分の茎・葉が入っていて、それを寒さから守る為に芽鱗で包んでいる鱗芽です。また花と葉が一緒に入った混芽でもあります。

小室の 鎮守の森「八幡宮」、御神木はシダジイとある。椎の実を炒って暖かいまま持って来てくれたお仲間がいて、参加者は暖かい椎の実を食べる体験が出来た。栓の木、樅の木、隈笹の中を通り抜け階段を下ると 剥き出しの根が目の前に見える。根っこの肌が木肌と同じ模様になっているのに気がついた。幹を支え、養分を吸収・蓄積する根の役目は重要。

陽だまりの草地には、ホトケノザ、オオイヌノフグリの花が咲き、手にとって虫眼鏡で観察、茎も触って四角いのを確かめてもらう。ノゲシ、ナズナ・・等のロゼットも沢山ある。寒さをしのぐ植物の知恵は凄い！ 陽だまりにホッと出来る春の兆しが見つけられました。

下見で沢山ついていたトウネズミモチの実が今日は一つもない。所々に「マエジロマダラメイガの作ったテント状の巣」だけがいくつか残っている。中には実を食べる幼虫が越冬しているというのに、このベタベタした糸で作った網は鳥も手がつけられないのでしょうか。

川沿いに出るとまず目についたのはオオカマキリ、ハラビロカマキリの卵鞘、何個ぐらい卵を産み、成虫になれるのは何匹？と問いかけてみる。川にはセグロセキレイ、上空にはトビが気持ちよさそうに悠々と飛んでいる。木にはカワラヒワがいて、よく観察してもらう。

クワコの空繭が着いている木は桑、冬芽(タケノコ型)・葉痕(三角)・維管束痕(多数)を確認してもらう。6～7 月に卵を産む時は葉に産み付けるが 秋に越冬卵を産む時は幹に産み付ける。落葉してしまうのを知っているのだ。クワコの成虫標本が回ってきた。(後で見るカシノナガキクイムシの標本も) 本物を見るのが一番で有り難い。チャミノガがぶら下がっていました。ミノムシは初夏に羽化しますが、雄は口がない。雌の成虫は翅も脚もない。参加者にこれを可哀そうだと思わせないように話しかけるのが良いと仲間に教えて頂いた。

イチョウの 1 年で伸びた長枝の長さと短枝の 1 年で伸びた長さを比較。短枝は葉痕が積み重なって作られている。また豚鼻のような葉痕には 2 個の維管束痕があるのも見てもらう。維管束痕 2 個というのはシダ類とイチョウだけだそうだ。

なかなかすべてを紹介出来ませんがニセアカシアの隠芽、トチノキの樹脂で覆われた冬芽、池で観られたカルガモ、コガモ、ホシハジロ等、コブシのふわふわコートを着た冬芽、ジョロウグモの卵嚢、リョウブの帽子が脱げそうな冬芽、カシナガの開けた穴、コゲラの開けた巣穴 等々 色々観察出来ました。「小室の歴史・文化・自然(植物，鳥，ムシや地形まで)を、昔から現在までの流れを感じながら観察でき有意義だった。」と感想を頂きました。

草地には小さな花が咲き 春の兆しを見っけ！